金蘭会Tokyo

金蘭会東京支部会報

May 2020 No.27

編集・発行　金蘭会東京支部　（大阪府立大手前高等学校同窓会）
事務室　設楽・阪本法律事務所内
〒104-0061　東京都中央区銀座 6-7-2　みつわビル 3F
http://www.kinran.tokyo/

平成を振り返りながらの令和最初の総会

令和最初の支部総会（第95回）が、6月30日(日)、如水会館にて、大手前校長松田正也先生を来賓に迎えて開催されました。当番幹事は昭和63年卒、昭和卒業最後の学年が務めました。

イベントは、幹事学年の坂元正三氏の講演「下町工場、逆境からの復活～平成の三十年間を重ねて～」でした。「だんご3兄弟」「IPS細胞」など平成を彩る名前のついたテーブルに座って、出席者全員が、思わず自らの平成を顧みながら聴き入っていました。

新幹線のぞみテーブル

だんご3兄弟テーブル

当番幹事を終えて

山本　昌生（昭和63年卒）

当番幹事から来年幹事にバトンタッチ

まずは第95回総会も無事終えることができたことを心より御礼申し上げます。当番幹事を通じて95回という金蘭会東京支部の歴史と大手前卒の繋がりを感じることができました。今回は、当番幹事を昭和63年卒21人、サブ幹事を平成元年卒11人で務めました。総会には158人のご出席を賜り、幹事一同、大変感激するとともに安堵したことを覚えております。また、ご出席が叶わなかった先輩後輩の皆様からも幹事業への労いや「大手前の卒業生で良かったし有難く思います」といった温かいお言葉を頂戴し励みとなりました。昭和最後の卒業生の私達が、平成を越えて、令和最初の当番幹事の役割を果たせことを大変誇りに思います。有難うございました。

私の逆境経営ストーリー、そして平成30年間

坂元　正三（昭和63年卒）

今回の同窓会で講演をさせていただきました。家業の町工場を継いでいた私にこの話をくれたのは高校1年の同級生だった横尾。「正ちゃんの経営者ストーリーに平成30年間を重ねてくれ」という依頼でした。高校時代、成績低空飛行だった私には大きすぎる舞台。しかし、ふと思いだされたのが「天はその人に乗り越えられない壁は与えない」という言葉でした。初回のリハーサルが大失敗、2度目で何とかOKをいただいたときは心底ホッとしました。同窓会が無事に終わった後、大阪に帰る新幹線で横尾から「正ちゃん、良かったよ、ありがとう」のメッセージ、それを見て泣けてきました。支えてくれた旧友たち、ご清聴くださった皆様に感謝します。

坂元正三氏の講演

賛助金御礼

支部長　阪本　清
（昭和42年卒）

現在の支部運営は、約2,500名の会員の所在確認、会報や総会案内状の郵送費等経費が大きくかさむ一方、支部会費収入は減少し赤字が続いています。

昨年第95回総会席上でこの実情を説明し賛助金のご協力をお願いしたところ、84名の方から180,602円の賛助金を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。

会員の皆様方には諸事情をご理解いただき、今後とも東京支部をご支援くださいますようお願い申し上げます。

東京支部 同窓の人々

人工衛星開発一筋

宇宙航空研究開発機構（JAXA）
理事補佐
中川敬三さん
（昭和50年卒）

１９８２年にロケットの開発がしたくて宇宙開発事業団（現、宇宙航空研究開発機構）に入社したが、結局、ずっと人工衛星の開発をすることになった。最初に担当したのが、放送衛星３号「ゆり３号」だ。１９９０、１９９１年にそれぞれ主衛星、待機衛星を打上げ、ＮＨＫとＷＯＷＯＷによる実用衛星放送がスタートした。現在では衛星放送は一般的になっているが、当時はまだ、世界でも実用化はされていなかった。設計寿命の５年間正常に動作し、衛星放送サービスの普及に大きく貢献した。

次に担当したのが、光衛星間通信実験衛星「きらり」だ。欧州宇宙機関（ＥＳＡ）の光通信実験に参加する形で、「きらり」の開発が始まった。約４０、０００km（地球の半径の約６倍）離れた衛星どうしで相手衛星にレーザ光を照射し、通信を行う。レーザ光を正確に相手衛星に当て続けるためには、１km離れた数ミリ程度の的に当てる精度が必要となる。「きらり」は２００５年に打上げられ、ＥＳＡの静止衛星との通信実験を成功させた。

最後に携わったのが、水循環変動観測衛星「しずく」だ。「しずく」の開発は２００７年から始まり、プロジェクトマネージャとして開発に参加した。「しずく」には、高性能マイクロ波放射計（ＡＭＳＲ―２）という観測センサが搭載されている。ＡＭＳＲ―２は高度約７００kmの宇宙空間で、地球表面から放射される微弱な電波を直径約２ｍのアンテナで受信する。６つの周波数帯の受信強度から、海面水温、降水量、水蒸気量、海氷密接度、土壌水分など水に関する物理量が導出できる。それが、この衛星の名前の由来だ。海面水温のデータは漁場探索に非常に有効で、多くの漁船で活用されている。また、水蒸気量などは世界中の気象機関が気象予報に使用している。

東日本大震災が発生した２０１１年３月11日には、「しずく」は筑波宇宙センターで衛星の試験を実施している最中だった。地震の強い揺れで試験していた建屋の壁が崩れ、衛星の横にがれきの山ができたが、幸い直撃は免れた。懸命の清掃作業や復旧作業のおかげで、衛星は無事、２０１２年５月18日に打上げられ、５年間の設計寿命を超えて、今もなお観測データを送ってきている。

1982年　京都大学大学院修士課程航空工学専攻修了、
　　宇宙開発事業団（現 宇宙研究開発機構（JAXA））入社
2007年　地球環境変動観測ミッション（GCOM）
　　プロジェクトマネージャ（「しずく」、「しきさい」の開発）
2013年　先進衛星技術開発室　室長
2015年　第一宇宙技術部門　衛星システム開発統括
2017年　理事補佐、統括チーフエンジニア

微生物に魅せられて

東京大学准教授
古園（こその）さおりさん
（昭和61年卒）

私は大手前高校を卒業後、一年浪人して大阪大学工学部醱酵工学科に入学しました。醱酵工学とはいわゆる「バイオテクノロジー」のことです。そこで微生物と出会い、その面白さに魅せられてこれまで研究を続けています。

微生物を用いたバイオテクノロジーは古くから日本のお家芸です。日本酒、味噌、納豆に代表される豊富な発酵食品は和食を彩り、うま味調味料の成分であるグルタミン酸の微生物を用いた工業レベル生産（グルタミン酸発酵）に世界に先駆けて成功したのは日本人研究者でした。高温や高アルカリなど極限的環境に好んで棲息する微生物もいて、衣料用洗剤に添加されている酵素はそうした微生物から日本人研究者によって発見されています。

微生物の多くは単細胞で、１つの細胞を操作することで生き物としての振る舞いを調べることができる利点があります。最近では微生物も集団としての振る舞いをすることがわかってきて、低分子化合物を介した微生物どうしのコミュニケーションや、時には自己犠牲的な振る舞いを取ることが知られています。微生物を対象とした研究は、食糧、健康、環境など私たちに身近な問題を解決するヒントを与えてくれる可能性を秘めています。

私は大学院を卒業したあと研究所の研究員を経て、現在は大学の教員として研究活動に携わっています。研究者の道を選んで良かったと思うことは、先入観に囚われずエビデンスに基づいて判断する習慣が身に付いたことでしょうか。情報が溢れ拡散しやすい現代の社会において、何を信じて判断し行動していくかがより大切になっているように思います。対象について徹底的に調べ、仮説を立てて実験によって検証し、信頼あるデータに基づいて相手を説得し、次の戦略を立てるという実験科学のプロセスを通じて、予測不可能な未知の世界を生き抜く力を身につけて欲しいと願いながら学生の指導にあたっています。

生物学は「現象の観察」に根ざした学問です。対象を丁寧に観察し、コツコツと実験を重ねて検証していくスタイルはどちらかといえば女性が得意ではないかと思っており、この分野に興味を持つ女子学生がもっと増えて欲しいなと期待しています。

1996年大阪大学大学院工学研究科醱酵工学専攻博士課程修了、博士（工学）学位を取得。その後、理化学研究所に基礎特別科学研究員として入所し、研究員、専任研究員として勤務。
2012年に東京大学生物生産工学研究センター特任准教授、2019年9月より同センター准教授。現在の研究テーマは、微生物（細菌）のタンパク質修飾と栄養応答、細胞の個性との関わりについて。

クラブOB会より

ラグビー 創部70周年記念イベント

中原　精一（昭和49年卒）

「プロじゃなくて、みんなが本当にラグビーを楽しんでやっている。これが本当のラグビーだ。」との荒井昭雄先生の言葉通り、北野高校六稜ラガー会参加のもと14回目となる現役、OBどうしの交流戦が行われ、プレイに観戦に参加者全員大いに楽しみました。昨年3月23日ラグビー部創部70周年記念イベントです。記念行事の後半は、近くのホテルプリムローズ大阪で70周年記念パーティーを開催。ボランティアで司会を務めてくれた森本光さん（平成3年卒）の進行で始まり、10代から80代にわたる142名の参加で、ラグビーブログ「横井章の魅力あるラグビー」で有名な横井章さん（昭和35年卒）の飛び入り参加もあって、大いに盛り上がり、母校への支援を誓い散会となりました。

ラグビー部創部70周年記念ベント

バスケットボール 創部100周年に向けてバトンをつなぐ

天野　隆（昭和55年卒）

バスケットボール部OBOG会2019年

大手前高校を卒業して35年が経った2015年末の忘年会で、恩師である故庭野孝夫先生（元顧問）から『バスケのOB・OG会活動が存亡の危機にあるので、力を合わせて活性化を頼みたい』とのご遺志をいただきました。

同期と近しい先輩・後輩に声を掛け、お一人で活動を支えてくださっていた浅子会長（昭和39年卒）にお会いしてバトンを受け、2016年3月に『復活OB・OG会（OHBC）』を盛大に開催することができました。以降、毎年3月、多数のご参加をいただき継続開催しています。

本会は今年、創部100周年を迎えます。恩師と先輩から受け継いだこの歴史を感じ、サスティナブルな活動を期待しつつ、後輩たちに受け継いでいきたいと思います。

サッカー 創部70周年記念 OB戦を開催

白石　吉行（昭和55年卒）

サッカー部は昨年、創部70周年を迎えました。16年前に桐蹴会（OB・OG会）が発足、現役への支援のほか、サッカーのプレーや観戦、懇親会、他校との交流等、幅広く活動しています。70周年記念行事第1弾として昨年4月、Jグリーン堺に北野、天王寺、大手前の3校OBが集まり、対抗戦を行いました。第2弾として11月、元日本代表の加地亮氏をお招きし、母校グランドにて盛大にOB戦を開催しました。写真のように10代～80代が一同に会し、昔話や今どきの話をするのは大変面白いと感じます。5年前に関東支部を設立し、東京を中心に独自の活動を行っています。70年間に亘り、サッカー部の歴史を築かれた諸先輩方に感謝の意を込め、今後もOB活動に尽力して参りたいと思います。

サッカー部70周年

連絡先…桐蹴会関東支部幹事長
白石　吉行
E-mail：y36.shiraishi@docomo.ne.jp

Series　総会の思い出　【第1回】

初めて出席した総会

川村喜一（昭和26年卒）
（元住友信託銀行代表取締役常務）

昭和20年北野中学校（旧制）入学、昭和23年学制改革、男女共学実施により大手前高校（新制）進学、昭和26年大手前高校卒業。

【大手前在学時のクラブ活動】
- バスケットボール部在籍（顧問　綿谷芳夫先生）
- コーラス部テノール要員（顧問　下村米太郎先生）
- ESS（英会話）クラブ在籍（顧問　飯田順先生）

私は1951年4月に東京大学に入学しました。未だ大阪出身の友人もなく1ヶ月が経過した1951年5月に開催された金蘭会東京支部総会の思い出を書きます。

当時は会合の名称もなく、東京在住の大手前卒業生の集まりでした。定期的な集まりでなく、年に1～2回集まっていたようです。金蘭会東京支部会報も未だ発行されていませんでした。印刷された書面の案内状もなく、先輩女性が突如私の下宿へ来訪、口頭の伝言がありました。たまたま、当時の手帳が残っていたので、開催日を確認する事が出来ました。会合の主な内容は次の通りでした。

開催日：1951年5月24日（木）午後
場　所：護国寺境内　和室大広間
主　賓：大手前校長　佐藤一男氏
（1948～1962年の14年間校長在任、大手前史上最長）
主な参加者：湯川スミ夫人（1949年ノーベル物理学賞受賞湯川秀樹博士夫人）

●支部会計報告（平成30年度）（平成30年1月1日～12月31日）

収入の部	金額（円）	支出の部	金額（円）
前年度繰越	5,085,989	支部運営費	677,593
支部会費	206,000	（内訳）	
（内訳）		会議費	10,223
終身会費	0	事務所使用料	60,000
年会費分	206,000	会報印刷代	46,015
		会報発送代	448,739
		HP制作・通信費	7,947
		手数料	40,466
		雑費	2,747
総会費残金	55,181	交通費	12,000
雑収入	11,000	交際費	49,456
貯金利息	3	次期繰越金	4,680,580
合　計	5,358,173	合　計	5,358,173

海外だより

スイス生活32年

ロイティマン(平井)晴子（昭和56年卒）

『グリュァッチ』スイスではね、道で人に出会うとこう言って誰にでも挨拶するのよ」と、義理の母に教わってから、かれこれ三十二年になる。結婚と同時にスイスドイツ語圏で住むことになった私は「ドイツ語」＝「ハイジャーマン」とは大いに異なる「スイスジャーマン」の習得が課題となった。スイスジャーマンと一言に言っても、各地で方言が異なり、スイス人同士でもお互い意味が通じない時が往々にしてあるのだ。さらに、スイスジャーマンは口語であり、文字表記がない。子音が聞き取れない典型的な日本人ともいえる私が耳だけで外国語を習得するなどもってのほかで、当初その課題はどこから手をつけていいのか全くわからず、限りなく不可能に近いものであった。が、現在の私は、ほとんどのスイスジャーマンが大まか耳で理解でき、なんの問題もなくスイスで生活しているのだから、月日というのは無駄に過ぎるばかりでは無いと感慨深くもなる。

その一方で、二人の子供と大阪弁のみで会話し続けたことは、私が自分のアイデンティティを大切にした証拠ではないかと思う。今思えば、遊び心も手伝って、かなりクラッシックな大阪弁で子供を育てたものだ。「ぼちぼち（犬の）散歩へ行ってきまっさー」と、高校生の息子が真面目な顔ですらっと言った時は笑ってしまった。が、そんな子供らも巣立って、夫婦二人の生活になった今、母国語使用の頻度が激減。「これはあかんわ」と、大阪弁の独り言を増やした結果、「それって老化の一歩やで」と、本気で夫に心配される始末である。やれやれ。

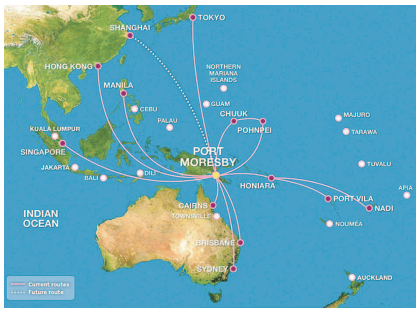
Arosaにて山歩き

パプアニューギニアより

上岡　秀雄（昭和62年卒）

皆さまはパプアニューギニア（PNG）と聞いて何を想像しますか？

私は一九九五年に日本から南へ六千キロ離れた熱帯の島国に青年海外協力隊員として赴任する際には、未開の部族に食べられるのでは？と心配する位でしたが、今や滞在は四半世紀を迎えました。信じ難い習慣にも慣れ、PNG人の家族に囲まれていると自分が何人なのか判らない時さえあります。（笑）



パプアニューギニアの首都 Port Moresby

世界で最大級の熱帯雨林に息づく動植物、世界有数の珊瑚礁等、手つかずの自然に囲まれた国土に八百以上もの部族が独自の文化を継続し、自然と共生してきた秘境です。天然ガス等の資源国として経済紙に名前が出る事もあります。そして、悲惨な戦争という過去に拘わらず、非常に親日的な人々で溢れています。

こんな異国でも、大手前の同窓生、諸先輩方のご縁に恵まれてきました。最近赴任された大使館員は山田滝雄大使（S53卒）の元で薫陶を受けられた方でした。医務官の高校時代の恩師が宮野淳一先生（S57卒）で話に花が咲き、PNGで活躍する商社の担当者は疋田収宏君（S62卒）という驚きもありました。これからも、人のご縁を大切にしていきたいと思います。

Information

●仲間募集…「金蘭会サロン」

金蘭会サロンは、20代から70代まで幅広い年代の方が集まるディナー会です。年に数回、不定期で開催しております。大手前高校の卒業生はどなたでも参加できますので、お気軽にご連絡ください。

連絡先：高木　雅（平成21年卒）
TEL：080-5324-5406
Email：rironriron@gmail.com

●仲間募集…「二子玉会（にこたまかい）」

第15回二子玉会は、10月６日（日）のお昼、二子玉川駅すぐのイタリアン「CHICAMA」で開催されました。15名のうち３名が初参加でしたが、大手前の空気にすぐ馴染まれました。今年も10月の日曜日に開催予定です。

連絡先：竹村　泉（昭和48年卒）
TEL：080-5448-7848
Email：426izumi-t@e08.itscom.net

●支部会費

年会費は1,000円です。同封の年会費払い込み用紙でお支払いをお願いします。

●広告掲載について

掲載ご希望の方は支部ホームページまでメールで連絡ください。
名刺サイズ１万円

●金蘭会東京支部ホームページ　http://www.kinran.tokyo/

会員登録・支部の最新情報・広告申込・ご意見ご感想ほかお問い合わせも、こちらにお願いします。

編集後記

・前号より「学年だより」の特集版として、「海外だより」をお届けしています。海外でご活躍の方がおられましたら、自薦他薦を問わずお知らせ頂ければと思います。